

はじめに

今年の総会も2年連続のオンライン開催となりました。私は参加していませんが本当に残念です。参加された会員の皆様にお礼申し上げます。

さて、ワクチン接種のことです。我が家に市より連絡が届いたのが4月中旬。すぐ電話しましたが全然つながりません。電話するのに疲れてしまいました。身内にオンラインを頼んで取れたのはなんと8月2日。オリンピック開催中（?!）でした。菅首相は7月中旬に対象者全員完了と公約していましたがとんでもない。高齢者やオンラインできない人は完全にアウトです。これが5月1日の現実でした。

ところが市から第2回目の連絡が届きました。（5月15日）。かかりつけ医でも受け付けるという内容で、さっそく電話連絡してやっと予約できました。1回目6月3日、2回目6月24日です。この会報が届いている時私の1回目は接種していることでしょう。

感染者数グラフを「さざ波」と呼んだ高名な学者がいましたが笑ってしまいました。台湾・韓国などと比べれば「高波」でしょう。比較の問題です。在宅ワーク・オンライン授業により自宅にいる人が多いと思いますが、私は退職してからは基本的に在宅ですから在宅は慣れていますが、しかしコロナ禍によって急な在宅生活を余儀なくされた方は本当に大変だと思います。教育や家庭内の問題等も報道されています。解決法もなく戸惑い、悩むことでしょう。どのようにすればよいのか。私の体験から一つだけ言えることは「誰かと話をする（対話・会話・コミュニケーション）」ということです。きっと役に立ちます。

高齢者のみならず全ての国民が早く接種できることを願っています。

1. 過去から学ぶ難しさ～アジア・太平洋戦争から～**（1）名称について**

私たちの年代（70歳以上～）は確実に「太平洋戦争」で定着しています。しかし、復古調になり「大東亜戦争」「大東亜戦争肯定論」もきかれるようになりました。どちらが正しいのでしょうか。

日本は前の戦争で欧米諸国・アジア諸国と戦いました。この事実から考えると「太平洋戦争」とか「大東亜戦争」など一つだけ呼称するのは不十分だと思います。私は「アジア・太平洋戦争」が良いと考えています。ただ「日中戦争」「日米戦争」など個別に考える学者も多いです。

（2）戦争を考える

またまた大上段にふりかぶったタイトルになりました。歴史学者でもない私が文章を書くのは恥ずかしいのですが、書かずにいられない心境なのでご批判を受けることを覚悟で書かせていただきます。

（ア）なぜ起きるのか

戦争の目的は「自衛のため～敵国の攻撃」「侵略」「同盟国との約束～国際情勢」「国内政局～国民の目をそらすため」「資源確保」「領土問題」等があります。国民はこれらの目的達成のため自分を正当化して戦争します。（駆り立てられるのですが）

（イ）戦争の条件

さらに戦争する時の絶対条件は4つあると言われています。

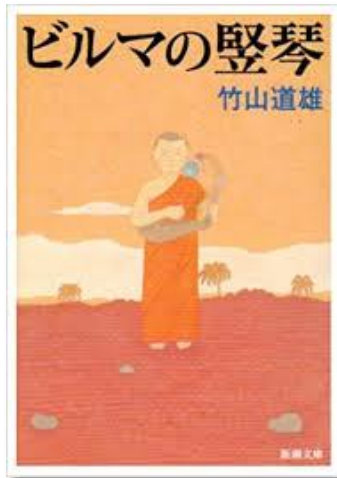
ひとつは「自国の国力すなわち経済力」です。ふたつ目は「技術すなわち武器の優劣」三つ目は「国民の意識すなわち高揚感」です。最後は「情報」そして「絶対に負けない戦争をする」ことです。

戦争だけは負ける戦争は出来ません。負けないためには歴史から学ぶことと科学的データを正しく読み取るこ

とです。分析してダメなら戦争しない別の方法を政治家・軍人は探るべきです。国民の安全・健康・財産を守るのが仕事でしょう

最も良いのは戦争をしないようにあらゆる努力をすることですが、これこそ最も難しく「言うは易く、行うは難しい」です。それだけ政治家は責任が重いのです。

同じく最も大切なのは「撤退、敗戦」処理です。事前に研究し迅速に処理するシステムを構築していることですが、日本人の最も苦手な分野です。特に旧軍人はひどかった。



(ウ) アジア・太平洋戦争で史上最低の作戦と最悪・愚劣な指揮官と言われた戦線は？ ～インパール作戦

インパール作戦はミャンマー（ビルマ）で日本軍と英国軍（実際はインド兵と同数といわれています）が戦った戦争のことです。竹山道雄著『ビルマの豎琴』はこの作戦がモデルです。この作品はインパール作戦が失敗し捕虜として兵隊が収容される前後の物語になります。

インパール作戦は別名「史上最低の司令官と作戦」とも言われます…私が勝手に命名したのではなく全ての研究者・軍事評論家が表現していますのでこれを使っています。

過去から学ぶ難しさの例としてインパール作戦をこれから書いていきたい。皆様もスマホなどですぐ検索できるので入力してみてください。なお司令官名は「牟田口廉也中将」です。

2. 現在の息苦しさ～ミャンマーについて～

(ア) はじめに

ミャンマーの国軍クーデターが2月1日に起きてからもう4ヶ月過ぎますが、解決の目途が尽きません。今度はイスラエルとガザ地区の紛争です。憂鬱です。

ミャンマー国もかなり知られてきましたがもう少し時間が必要と思います。最近の新聞にミャンマー料理とかどのへんに多く住んでいるかなど紹介されるようになりました。

私が知っているのは高田馬場駅すぐ近くでミャンマー料理店がたくさんあります。多民族国家らしくそれぞれの民族名、州名の名前が付いた料理名が提供されています。値段は手頃で千円前後です。ビールもあります。仏教徒の多い国なのでお酒の習慣はほとんどないのに種類は多いです。ビールは英国占領時代に磨かれ国際コンクールに何回も入賞しています。銘柄名「ミャンマー」といいますが都内でも飲めます。ご賞味ください。

(イ) ミャンマー（ビルマ）国を知るために

コラム1 ビルマ入の名前は姓がない。あるのは名前だけでアウンサンスーチーさんを無理に姓と名前にわけない。

コラム2 ビルマのことわざ（沢山ありますが2つほど紹介します）

“会いたければ近く会いたくなければ遠い” …

1947年アウンサン将軍が渡英して時の英国首相と交渉した時にこのことわざを引用してアトリー氏を感動させ独立交渉がスムーズに運んだと言われます。

“弟子のデキの悪さは先生の頭の悪さ” … 日本ではデキの悪さは先生の責任と解釈されるが、ビルマでは逆に先生に恥ずかしい思いをさせる弟子がもっと悪い、勉強せよとなる。先生はとても尊敬される存在です。



ミャンマー紙幣～アウンサン将軍は国の英雄

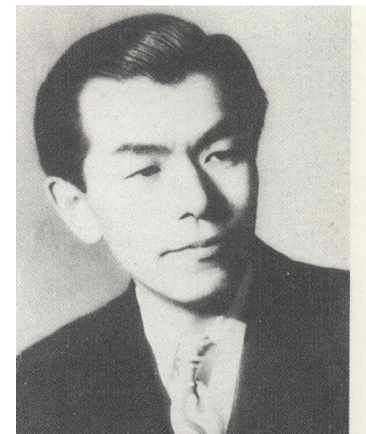
コラム3 『ビルマの豎琴』の幻想… “修行もせず僧にはなれない。” 一番問題なのは豎琴を奏でることで、ビルマの僧は歌舞観聴を厳しく禁止されており、これは破戒僧になります。琵琶法師のイメージは存在しない。遺骨収集し供養する行為もビルマ人には不思議な行動に映る。ビルマ仏教では遺骨に執着しない。焼き場でも遺骨を残していく遺族が多いのが現実です。したがって水島上等兵が僧になり遺骨を探して歩くのはビルマ人にとって異様な姿に見えるでしょう。

コラム4 ビルマ最初の王は選挙で選ばれた？… これはビルマ・タイに伝わる伝説です。人間ははじめ仲良く平和に暮らしていたが、だんだん欲深くなり争い、犯罪や対立がはびこるようになった。そこでみんなで話し合って王を選びだした。選ばれた王は社会を安寧に統治した。この伝説をアウンサンスーチー氏が軍事政権と対峙した時に演説し政権に抵抗しました。

※このコラム1～4は、根本歌著『物語ビルマの歴史』（2014、中公新書）からの引用です。

(ウ) 古関裕而氏について

さて、NHK連続テレビ小説「エール」が昨年放送されました。作曲家古関裕而をモデルにした主人公が芸能慰問団の一員として兵士を激励するためビルマ戦線へ派遣されます。そこで作曲家を目指す道を拓いてくれた恩師と偶然再会します。感激の再会場面は印象深いものでした。しかし最も衝撃を与えたシーンはその恩師が戦死する場面でした。生々しく、悲惨で本物のようなりアルさでした。目をそむけたくなるような時間でした。この時間の放送は朝食に見ている人が多い。私もそうです。したがって、激しい戦闘場面は映画ではあっても朝ドラでは無かった。それが朝食時間に放送されたので反響は大きく賛否両論ありました。実際のビルマ戦線はもっともっと過酷でひどい状況でした。



朝ドラのモデル古関裕而

古関裕而氏は東京オリンピックのマーチ等で知られる国民的作曲家ですが、戦時中は戦時歌謡の第一人者であったことはもう忘れられています。私は今でもいくつか歌えますよ。当時の若者は熱狂的に古関裕而作曲の戦争高揚歌を胸に秘め勇んで志願し喜んで戦場に突入したと言われてい

ます。しかし戦後、古関氏は青少年達を戦争い駆り立てた責任を深く感じ反省しました。数年間の苦悩の後、「長崎の鐘」等平和を希求する歌謡曲・マーチ・校歌・テーマ曲など数多く作曲し戦後の疲弊した国民に夢と希望を与えてくれる作曲家になりました。

3. 未来へ希望を～教育のAI化を考える～

「私が退職した2000年度はまだAI化は進んでいなくてオンラインなど出来なくとも仕事は困りませんでした。今では考えられないです。アナログ世代の人間です。

しかし現代を生きるにはこれではダメです。絶対に必要です。自分は実行していないのによく言うよと言われてそうですが聞いてください。(評論家のつもりです)

AI(人工知能)の名称が初めて使われたのは1956年(昭和31年)のダートマス会議のことと言われています。現在は第3次世代を経過して次の世代へ向かっているようです。簡単にいえばコンピュータ自身が学習して認識・判別することが出来るようになる。人間に近づくように進化中ということです。

たとえば、いままでは犬と猫の違いの判別は人間のプログラムで判断していた。しかし、AIにたくさんのデータを入力するとコンピュータ自身が犬と猫を判別することが出来るようになるという未来です。幼児・子供にいろんなことを学習(入力)させまたは学習して人間になるようにです。

・すでに実現しているもの(商品売り上げ予想、天気予報、掃除ロボット、検品検査、顔認証、自動運転の一部、

配膳ロボット、自動翻訳機、エアコン室内温度など多数)

・未来のAI（仕事の自動化、車運転の完全自動化、カメラなどによる監視業務、検査業務、軍事の応用、宇宙探査等、明るい展望も多数考えられる）

・課題

人間がAIをどのように平和的に使いこなしていくか。AIが感情を待つかどうなるか、人間を攻撃しないか、人間を超えないか等真剣に考える時間が追っています。

教育のAI化とは

コロナ過で教育環境も自宅待機により急にAI化の波が進もうとしています。その結果様々な問題が出てきました。特に日本は先進国では一番遅れているということがはっきりしてきました。教育のAI化は功罪ありますが、私はもっと進み先進国になるべきと考えています。この遅れが将来の日本を暗示しているような気がして心配です。このことは次回に書かせていただきます。